2024年一般社団法人小平青年会議所理事長所信

松岡あつし

【はじめに】
まず初めに、一般社団法人小平青年会議所の理事長として皆さんと共にこの舞台に立つことができることに感謝いたします。私たち小平青年会議所は昨年40年の歴史を経て、新たな時代の扉を開こうとしており、私自身その一翼を担えることを誇りに思います。これまで歴史を紡いで来られた多くの先輩たちの軌跡に想いをはせるとともに、あわせてこれまでご支援をいただきました行政、地域関係団体の皆さまに、心より感謝いたします。

最初に私が小平青年会議所の理事長職を受けるにいたった経緯と私の想いについて共有をさせていただければと思います。

私は現在、青年会議所に入会8年目で政治家として生きています。小平という街のために全力でまちづくりに取り組んで参りましたが、その過程の中で仕事を失った時がありました。その際、自分が世の中に関われるものが非常に限られてしまい「自分は世の中に必要とされていないのではないか」と想い悩む時期がありました。自分がいなくても社会は回るし、物事は進んでいく中で自分の存在意義を自問自答しました。青年会議所活動も何度もやめることを考えました。

今でこそ私の人生にとって学びとなった時間ではありましたが、経済的にも非常に苦しい時期でもあり、家族にも迷惑をかけたことを昨日のように思い出すこともあります。
しかしながら、周囲の支えてくれる多くのみなさんのお声がけやお心遣いにより何とか本日まで生きてくることができました。今考えると、とても弱い情けない自分がいましたがそんな折にも私に仕事を与えてくれた方、悩み事の相談をしてくれた方、様々な方々が声をかけてくださり「あなたはまだ人に必要とされている。」「もう一度頑張ってほしい。ずっと応援している」と言うお言葉をいただき、「これまでの自分の活動は間違っていなかった。まだ社会に必要とされているのであれば再び強く生きていこう」と思いなおしました。
青年会議所運動においても非常に苦しい中で活動をすることになりましたが、退会せず続けることができたのも当時の数人の仲間が「大丈夫か」と声をかけてくれたから踏みとどまることができたと思います。

今日日、自身の裁量ではコントロールができない公務スケジュールと2024年度理事長との両立は非常にハードルが高く、メンバー各位のご協力をいただき運動をしております。他方で、歴代の理事長や先輩方のお話をこれまで様々伺ってまいりましたが、政治家が小平において青年会議所の理事長を務めるということは初めてのことであり、内外からも注目をされており、大きな責任を感じています。

青年会議所の会員は40歳を超えると卒業をします。昨年7名の卒業生、本年8名の卒業生を迎えることになります。これは青年会議所が、20歳から40歳までという年齢制限を設けており、青年の真摯な情熱を結集し社会貢献することを目的に組織された青年のための団体であるためです。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっており、この流れを後世に残す必要があります。

次年度の理事長職のお話が出た際に、これまでお話した想いや、小平青年会議所の先輩方や現役メンバー、かつて私たちの事業に参加をしてくれた方々の顔を思い浮かべ、この長く続いた会を継続する必要があるのではないか。そしてこの先私たちの団体がさらに必要とされる時代がこの先もあるのではないかと考え理事長職に挑戦をしてみようと考えました。

また、近年、小平青年会議所では他薦や話し合いの結果、理事長を決めるという流れをとっていました。理事長を決定する際に立候補者が不在のため話し合いの上決める方法が続きましたが、今後は当代を中心に後継者をつくり、自ら手をあげる立候補形式でこの会が今後も継続する流れ

をつくれればという想いをこめて理事長職への挑戦を決めました。

多くの先輩方がこれまで関わってこられた40年の歴史を途絶えさず、地域社会が持つ課題解決の担い手として必要とされる存在を目指したいと思います。

【社会課題解決を目指す地域の団体に】

「青年会議所とは一体何者なのか」入会以来常にこの問いを私は自問自答してきました。運動を通じてみなさんも一度は考えたことがあるのではないでしょうか。よろしければ、私の所信を通じてともに考えていただければと思います。

青年会議所とは世界中に存在する世界組織です。青年会議所のロゴマークは国連のマークを使用しており、日本青年会議所は、国連憲章もその活動を認めるJCIの一員であります。さらに、小平青年会議所は東京ブロック協議会内24の各地域・所属会員数が約1,300人の青年会議所組織の一つであります。

日本全国の青年会議所の中には行政の計画に対して意見を提言したり、行政の事業への参画をするなどし行政が有している課題に対して積極的に関わっている組織もあります。

私たちが目指すのは、地域の健全な発展に貢献するために社会の課題解決をすることです。そのためには、本日ここにお越しの皆様の協力と連携が欠かせません。私たちは知識やリソースを共有することで、より大きな成果を上げることができるはずです。青年会議所は行政との連携を強化し地域全体の力を結集させ社会の課題解決をすることが肝要です。

そんな私たちが取り組むべき社会の課題とは何でしょうか。少子高齢化による人口構造の変化、デジタル化の遅れ、コミュニティの再生・活性化など地域社会の課題は多岐にわたります。私たちの住む街小平においても社会課題は存在します。これまで小平市は人口は増加傾向であり、近年市の税収も最高益を記録してまいりました。しかし、今後は古くなった公共施設の更新や社会保障費の増大など多くの経常的な歳出が増えることが想定されます。小平市公共施設白書によると、2060年までの更新費用の合計は1,370億円にのぼり、毎年29億円以上の費用が必要とされています。これまでの右肩上がりの経済成長をとげてきた時代から、限られた財源の中で行政は事業や施策・サービスをする段階にきておりそのことはより顕著になってくることになります。
今後様々な事業を行政だけで地域社会の課題を解決することは困難な時代となるのです。

転入・転出が頻繁に起こり、新規の宅地開発や大規模マンション等共同 住宅が増加する中で、市内の自治会加入率は右肩下がりとなり、平成元年には　55.5%であった自治会加入率は33.7%(令和3年9月現在)まで低下しています。全国的に比較をしても低い数値でありそのことから社会課題解決へのリソースが低下している懸念があります。さらに高齢者人口は平成　27　(2015)年国勢調査時点で 42,139 人、高齢化率は 22.2%で、今後もしばらく増加を続け、令和 22(2040)年には 56,416 人、30 .2%まで上昇すると推計されます。持続可能なまちづくりにあたり人類史上初の超高齢化社会が到来します。同時に新型コロナウィルスの影響もありコミニュティ力の低下は地域のイベントを起こせる力の減退、地域で若者を育成する機能の減少、地域の防災の担い手不足など様々な課題が発生しています。

「小平市においてはコミュニティの再生と活性化が社会課題であると考えます。」

社会課題はメディアや行政が捉えているものもありますが、実は埋もれてしまっている声や捉えきれない変化があるものとして認識する必要があります。その意味で未来に向けて私たちに課せられた使命は大きく、課題を見える化することが重要です。私たちは地域の未来を担うリーダーとして、謙虚に学びながらも勇気を持って行動し、地域社会の発展に貢献していく覚悟が必要です。

私たちの学びと行動と活動の量が地域社会にポジティブな変化をもたらすことを信じ、そのために全力を尽くしていく覚悟を新たにする時です。市民が困っていることをみつけて、若者の力で解決をする！そのために私たちの存在意義があるのだと思います。

皆さんと共に、社会の課題に立ち向かい、解決に向けて前進していくこと。そうすることで私たちは自分たちの街を持続可能で明るいまちづくりをすることを目指してまいります。

【5つの挑戦】
私たちは地域社会の一員として、真の変革と成長を遂げるために、次の5つの重要な領域に注力していきたいと考えています。

お祭りで地域再生と活性を目指す
まずはじめににコミュニティの拡充と再生のため、地域のお祭りの創出及び活性化を行います。
小平市ではコロナ禍を経て地域の祭りなどが復活しつつあります。他方で、一部の地域では「もうお祭りを続けることはできない」という声をお聞きします。その継続や存続が課題となっています。
お祭りは地域の結束を高め、文化や伝統を大切にする機会です。私たちは新しいお祭りのアイディアを提案し、既存のお祭りをより魅力的なものにするための取り組みを行い、地域の魅力を広めていくことを目指します。

日本人は古来より普段通りの日常を「ケ」の日、祭礼や年中行事などを行う日を「ハレ」の日と呼び、日常と非日常を使い分けていました。現代においてお祭りとはどのような機能を持つのかを考えてみると、祭りには子どもからお年寄りまで、街の構成員たちが一同に集まります。そこにはコミュニティの紐帯を持続強化させる機能があり、さらに言えば子どもがどれくらい成長したか、お年寄りがどのような状態なのかなどを確認するという機能があり、災害が起こった時などのために地域の現状を把握することができます。なぜお祭りが「コミュニティの再生と活性化」につながるかと言うと、お祭りは地域社会の活動に参画をするきっかけとしては関わりやすい機能を有しているからです。

例えば、高齢化率が非常に高いある団地の中で継続的に行われてきたお祭りの存続が難しくなった際にその団地を大学のシェアハウスとして活用いただいたことがありました。結果として大学生が超高齢化率のコミュニティに入り若者の力が加わったこともあり今日もそのお祭りは続いています。

お祭りは一人では成功させることはできませんが、年齢や性別や能力に囚われず参画をすることで様々な個人の活躍の場をつくることができお互いをリスペクトできる機能も有しいていると思います。
小平市における若者の団体として、お祭りという誰しもが参画をしやすい入り口を用意することで、コミュニティを強化し、地域の担い手を発掘することで、社会課題解決につなぐ事業を展開します。

次の世代を育て新たなコミュニティの担い手を育てる
2点目として青少年の機会を創出することも、私たちの重要な使命です。若者たちは地域の未来を担う存在ですが、その可能性を最大限に引き出すためには、小平市は指導者の確保やGIGAスクール構想の遅れなどの教育環境の整備などが課題としてあります。また、学校の教育だけではなく地域のコミュニティの持つ力がもたらす機会の提供を行うことが課題です。
その課題解決のためには教育やキャリアのサポート、参加の機会を提供をする必要があります。
私たちは青少年向けのプログラムやイベントを展開し、彼らの成長を支援していきます。
最近では、青少年たちについては様々な話題があります。世界最年少のなんと4歳半で起業したというアメリカの少女、ミカイラ・ウルマーさん。例えば、2009年に自家製レモネードを開発、製造、販売する会社を起業して以来、実に10年以上経営者を務めています。また、2017年12月に米

Forbesが発表した「30 UNDER 30」には10代の選出者が15人含まれています。これまでの大学を入学して大手企業に入るの人生以外に様々な選択肢が生まれています。この波は私たちの住む小平市にもすでにやってきています。ICT教育の進展に伴い、日本中においてこれまでの集団授業から個別最適化授業へと教育のあり方も大きく変わっていくことになります。その時に小平市の子どもたちには遅れることなく、個々の力を伸ばしてほしいと思います。その際必要となるのはテクノロジー・技術だけではなく、個々の目指すべき指針、方向性です。その骨格をつくりあげていくための機会と環境をつくっていきたいと思います。その際に私たちの地域にある様々な地域資源、また、メンバーの持つ知見やネットワークを駆使することで全ての青少年への成長の機会の提供を行います。将来において、小平市から社会課題の解決をする担い手を輩出します。

地域の若者コミュニティが地域社会を守る仕組みをつくる
3点目に、社会福祉協議会と昨年締結した防災協定の履行にも取り組んでいきます。コミュニティの低下はその街の防災力の低下にもつながります。

全国的に防災に係る「公助の限界」を補う取り組みとして「災害時応援協定」の締結が進められています。しかし、事例研究をみてみると災害時応援協定を締結しても、必ずしも協定が履行されるとは限りません。実際、東日本大震災では、災害時応援協定がスムーズには機能しなかったケースも見られており、「協定の実効性確保」が課題となっています。

多くの協定先をもついわゆる「先進的」な自治体においても、協定先との連絡調整や訓練、協定内容の公表以外の取り組みは進んでいないようです。
そこで地域に根差し、社会課題解決を掲げる私たちが協定の実効性の確保を示すことで街全体の防災力向上に寄与する必要があります。協定先の社会福祉協議会と定期的な協議の機会を設けて真に必要な防災協定のあり方を模索し協定に実効性を持たせる事業を展開します。
そのためには協定締結者の我々小平青年会議所のメンバーも参加しやすい防災訓練を行います。「私たちの地域は私たちの手で守る！」という気概を小平青年会議所がつくります。

コミュニティの再生と活性化をする仲間を集める
4点目に、人員増強と拡大運動です。これまで上げてきた社会の課題を解決するためには一緒に取り組む仲間が必要です。私たちは新たなメンバーを迎え入れ、多様なバックグラウンドとアイディアを組織に取り込むことで、より広範な社会課題に対処できると思います。また、新たなプロジェクトやイニシアティブやネットワークを展開し、地域社会への影響を拡大していくことが私たちの目指す方向性です。見方を変えると冒頭申し上げた社会課題の解決を行う地域に必要な組織であるということが浸透すれば自ずと地域社会からの需要が高まり、メンバー確保にもつながるものと考えます。
また、20-40代は現役世代であり仕事を通じて日々の暮らしを生きています。青年会議所も市内で経済活動を行う同世代の仲間のニーズを捉え必要な事業を展開する必要があります。
社会課題解決を率先して行う若者のチームであることはもちろん、持続可能な団体を目指すために地域経済を担う事業者や大学などとの連携を強化していきます。
この先地域社会から求められる事業を私たち小平青年会議所が構築することで、地域の中でブランディングの確立を目指します。

先輩方のお力添えをいただき既存メンバーのネットワークや勉強会、懇親会、ビジネスイベント等など様々な直接的なコミュニケーション手法や他青年会議所での拡大活動の情報収集、分析を行い市内のキープレイヤーたちを巻き込んでいくアクションを起こします。そして最終的に今期は各委員会・事務局ごとに人員増強と拡大活動の具体的な目標数値を持って臨みます。

小平青年会議所をエンパワーメント！
最後に、組織体制の改善を図ることで個人やチームがもともと持っている能力を十分に引き出せる環境を整えて参ります。

今期は新しく理事や役員になるメンバーが多くなります。これは小平青年会議所をより成長させることができる良いチャンスだと考えています。
私たちは共に協力し、情報を共有し、アイディアを交換することで、より効果的な活動ができると考えます。透明性とオープンなコミュニケーションを促進し、メンバー一人一人の声を大切にする環境を築いていきたいと考えています。偏重してしまう業務量の部分を
中心に議案作成にかかる事務作業の簡素化や会議運営やこれまでのルールや慣習などを見直し、業務集中が改善できないか、そもそも事務作業として必要か、時代に合わせたルールの改善などよりよい組織体を築いてまいります。

一人一人の持っている知見や能力を最大限に発揮でき会としてもよりパフォーマンスを高くすることができれば組織内のモチベーション向上にもつながると考えます。
小平青年会議所がこの先も継続して運動をするために必要な組織体制の改善を図ります。

【人生は一度きり！私たちの力で世の中をつくりたい】
結びにあたり私たち小平青年会議所がどうあるべきなのかを述べたいと思います。

人生は日々あっという間に過ぎていきます。私たちは縁あって日本の中の東京、そして小平市という街の中で生きています。背景もキャリアもばらばらですが、一緒のチームとして動くのであればメンバー一人一人の人生が豊かになるために私たちの運動は行われるべきです。

皆さんはご自身の人生の最後を考える瞬間はありますか。

「今日は人生最良の日だったか。今日が最後だと思って生きているか。」
この言葉は私が常に意識している言葉です。

最愛の人と一緒にどれだけいることができたのか。
富をどれだけ得ることができたのか。
自分の夢をかなえることができた人生だったのか・・・。

人によってその価値観は様々だと思いますが、歴史を振り返ってみると「世の中を変えたい、世の中をもっと良くしたい」と考えそのことに人生を燃やしてきた先人達がいました。

中世の時代に戦乱を亡くし平和な社会をつくりたいと想い天下統一を目指した人。

幕末の時代に外国の脅威を感じ日本を守ろうと私塾を立ち上げ、藩を飛び出し、大政奉還、江戸無血開城を遂げ、西洋列強に負けない国をつくった人々。

世界戦争が起こり敗戦間近、郷土日本や家族を守るため犠牲になられた方々。

戦後復興に向けて汗を流し、世界トップクラスの経済大国まで牽引した多くの企業戦士や、政治家、研究者。

一人ひとりの一歩の積み重ねが社会をつくり、その結果として私たちの社会は先人たちによって得られた恩恵となっています。インターネットへのアクセス、食べ物、知識、そして私たちが当たり前だと思っているその他の数え切れないほどのものは、私たちの前の人々の努力によって可能になっているのです。私たちの街小平市も同様であります。

私は彼らのように志高く社会を守りつくる一瞬の輝きになり、この後の人々へ託していける存在になりたいと思います。小平青年会議所もメンバーや小平市に住う全ての人に対して社会をつくる一員としてみなさんに力を発揮していただきたい、ともに社会をつくっていく存在にしていきたいと思います。

小平青年会議所は40年の歴史を終え、新たな一歩を踏み出すことになります。多くの先輩やメンバー、地域の方々が下さったこの大きな力をここからの新しく歩む力に変えて力強く新たな一歩を踏み出すことが求められています。私たちの運動を通じて小平市民が価値を感じる社会をつくることによって、私たちの人生も豊かになると信じ、小平青年会議所は新しい41年目という一歩を力強く踏み出します。
一年間何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年度小平青年会議所スローガン

create a society
新たな一歩